

今年の日高の冬は近年になく厳しい冷え込みが続きましたが、当育成調教場では整備のいきとどいた屋内馬場で、若馬達が競馬デビューに向けトレーニングに余念のない日々を送ってまいりました。また、昨年の調教場の利用状況を「BTCからのお知らせ～軽種馬育成調教場の運営・管理」で紹介しましたが、本年も利用頭数や競走成績が更に向上するよう期待いたします。

当センター育成調教技術者養成研修は平成4年4月に6か月間・6名でスタートし、この春で満20年を迎えました。その間に1年間・20名へと内容を充実させ、より実践的に対応できるシステムを確立して今日に至っております。今月13日に修了する第29期生21名を合わせ、375名の修了者を育成業界へ送り出してまいりました。今後も皆様のお役に立てる技術者を輩出するよう努めてまいりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

(Y.H.)

「たづな」欄には社団法人日本装蹄師会の今原照之会長に「日本馬は強くなった！！」というタイトルで執筆していただきました。昔に比べて日本馬は海外でも大活躍し、国際的に見ても遜色ないレベルに達してきたように思われますが、この状態を維持していきたいものです。

「調査・研究」では、育成馬にみられる胃潰瘍についてJRA日高育成牧場業務課の遠藤祥郎氏に執筆していただきました。各種ストレスのかかる育成馬の日常の健康管理に役立てていただければ幸いです。「科学の箱馬車」では、「蹄機作用の実態 - 走行時における蹄踵間距離の変化量測定法の開発 - 」というタイトルで、美浦トレーニングセンター競走馬診療所の諫山太郎氏に蹄に関する基本的な事柄を紹介していただきました。蹄あつての強い馬です。

「海外の馬最新情報」では、「現場における重篤な疝痛の管理法」について紹介しました。診断や治療の指針に役立てていただければ幸いです。「馬にみられる病気」では、今号から心臓と循環器について取り上げ、今回は基礎的な事柄を解説しました。速く走るためには心機能や循環器の発達は重要であり、育成馬の能力向上に役立てていただければ幸いです。

(T.Y.)